

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成18年8月17日(2006.8.17)

【公開番号】特開2006-26126(P2006-26126A)

【公開日】平成18年2月2日(2006.2.2)

【年通号数】公開・登録公報2006-005

【出願番号】特願2004-209702(P2004-209702)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 1 2 Z

【手続補正書】

【提出日】平成18年7月4日(2006.7.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

発射された遊技球が案内される遊技領域に設けられ、遊技球を停留させることが可能な停留部を有し、遊技球を前記停留部に停留可能な停留可能状態と、前記停留部における遊技球の停留が解除される停留解除状態とに変化可能な停留装置と、

遊技球の入球により、所定遊技状態が発生又は継続させられる特定入球手段とを備えた遊技機であって、

前記停留装置が前記停留可能状態から停留解除状態に変化するとき、前記停留部に所定の必要停留数の遊技球が停留されている場合には、前記特定入球手段へ遊技球が案内されるよう構成し、

前記必要停留数を第1の必要停留数とするか、前記第1の必要停留数とは異なる第2の必要停留数とするかを決定する必要停留数決定手段と、

決定された必要停留数が前記第1の必要停留数の場合には、停留可能状態として前記停留装置の停留部を第1の停留可能状態とし、決定された必要停留数が前記第2の必要停留数の場合には、停留可能状態として前記停留装置の停留部を第2の停留可能状態とする停留可能状態切換手段とを設けたことを特徴とする遊技機。

【請求項2】

前記停留装置は、複数の回動可能な前記停留部を備えるとともに、前記各停留部の回動角度を変更させることで遊技球が停留される数を変更可能としたことを特徴とする請求項1に記載の遊技機。

【請求項3】

前記各停留部を回動させるための単一の回動手段を備えることを特徴とする請求項2に記載の遊技機。

【請求項4】

前記停留装置が停留可能状態となっている時間を変更する手段を備えるとともに、第1の必要停留数よりも第2の必要停留数が多く設定され、

前記停留装置が停留可能状態となっている時間及び前記各停留可能状態の組み合わせパターンとして、

前記決定された必要停留数が前記第1の必要停留数の場合に、停留可能状態として前記停留装置の停留部を第1の所定期間だけ第1の停留可能状態とするパターンと、

前記決定された必要停留数が前記第2の必要停留数の場合に、停留可能状態として前記停留装置の停留部を前記第1の所定期間よりも長い第2の所定期間だけ第2の停留可能状態とするパターンとを備えることを特徴とする請求項1乃至3のいずれかに記載の遊技機
。